

テーマ別意見交換会の記録

9/30

- 開催日時 平成29年9月30日（土）10:00～12:00
- 実施内容
 - 1 はじめに（説明：まちづくりマスタープランとは、意見交換会の目的、まちづくりの現況と課題について）
 - 2 テーマ別意見交換
 - 3 各グループの結果発表
- 参加人数 30名

11/25

- 開催日時 平成29年11月25日（土）10:00～12:00
- 実施内容
 - 1 はじめに（説明：まちづくりマスタープランとは、意見交換会の目的、スケジュール、前回の振り返り）
 - 2 テーマ別意見交換
 - 3 各グループの結果発表
- 参加人数 21名

3/4

- 開催日時 平成30年3月4日（日）10:00～12:00
- 実施内容
 - 1 はじめに（説明：まちづくりマスタープランとは、意見交換会の目的、スケジュール、前回の振り返り）
 - 2 テーマ別意見交換
 - 3 各グループの結果発表
- 参加人数 25名



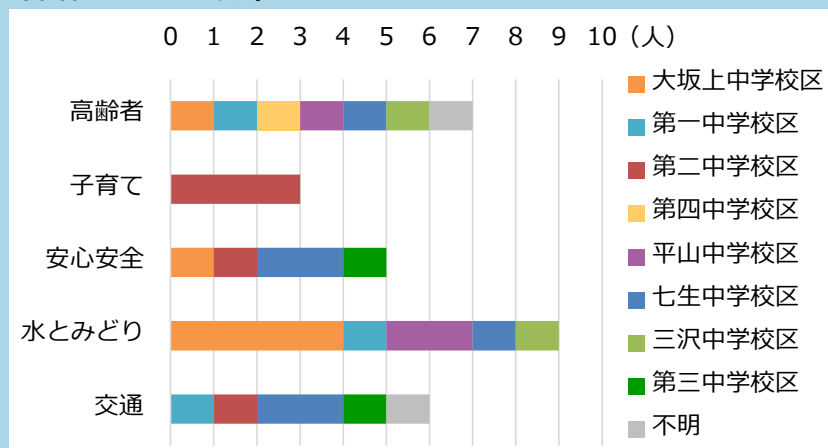
9/30

※「水とみどりの豊かな暮らし」グループは2つに分かれて実施

(グループ別人数)

(グループ別人数)			(性別×年代別人数)						
	テーマ	参加人数		0	1	2	3	4	5 (人)
1	高齢者目線の暮らし	7	男性						
			女性						
2	子育て目線の暮らし	3	男性						
			女性						
3	安心・安全な暮らし	5	男性						
			女性						
4	水とみどりの豊かな暮らし	9 (4+5)	男性						
			女性						
5	暮らしを支える交通環境	6	男性						
			女性						

(居住地別人数)

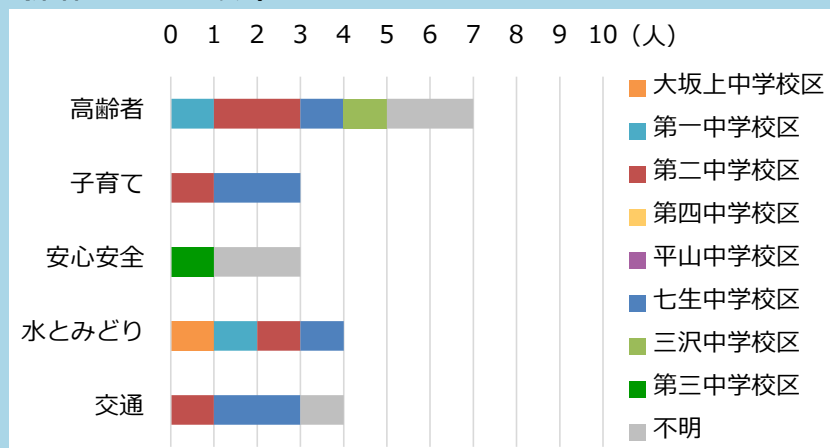


11/25

(グループ別人数)

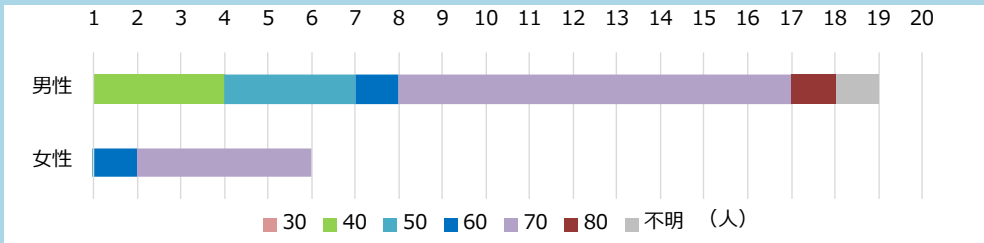
(グループ別人数)			(性別×年代別人数)						
	テーマ	参加人数		0	1	2	3	4	5 (人)
1	高齢者目線の暮らし	7	男性						
			女性						
2	子育て目線の暮らし	3	男性						
			女性						
3	安心・安全な暮らし	3	男性						
			女性						
4	水とみどりの豊かな暮らし	4	男性						
			女性						
5	暮らしを支える交通環境	4	男性						
			女性						

(居住地別人数)



3/4

(参加者数)



高齢者にとっての日野市の暮らしやすさ

暮らしやすいところ😊

◎ 地域住民の結びつきがある

- ・地域住民の結びつきはかなりある。人によっては防災・防犯意識が高い（万願荘）
- ・防災訓練の集まりが良い（西平山）
- ・ななおBon祭りのまともりは、商業活動としても素晴らしい！（七生中地区）

◎ 自然が多く暮らしやすい

- ・八王子より都会で、立川より田舎で、暮らしやすい
- ・住宅地が静か。のどかで空気がきれい（南平）
- ・鳥の声が聞こえ自然が多い

◎暮らしやすさ

- ・立川、八王子より家賃が安い
- ・買い物等、毎日に暮らしは満足している（多摩平）

◎ 行政の良さ

- ・「税金だけでは持ちません！」と発信している部署が良い
- ・行政の柔軟性が良い気がする
- ・福祉が充実している

仲田の森で夏祭り！

一中地区の地域懇談会の活動の一つ。イベントを通して顔の見える関係づくりに取り組む



ななおBon祭り

七生中地区の地域懇談会の活動の一つ。いざという時に一致団結でき、日頃安心して暮らせる地域づくりを目指す。



課題

日野市に暮らす価値を高めるために

地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動等への高齢者の参加の促進 ・地域活動等への参加に対する意識啓発
活動の場所	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が地域活動等で集まれる施設・場所の確保 ・施設の使いやすさの向上
道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が移動しやすい、道路・交通環境の確保（歩行者、車椅子、自転車、バス）
生活利便性	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者でも買い物がしやすい生活環境の確保 ・南北移動など交通環境の改善
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスの向上

暮らしにくいところ☹

△一部の人が地域活動に参加していない

- ・自治会活動に参加する人が減少
 - ・元気な人しか活動しない。集めても主体的に関わる人が少ない
 - ・老人が多く自治会のまとまりがイマイチ。子供が少なく活気もイマイチ
 - ・自治会同士の交流が少ない
 - ・賃貸住宅の住民と、分譲住宅の住民の交流が別々
 - ・交流の場は思ったよりあると思うが、最初の一步が難しい
 - ・人口は減っていないと感じる。高齢化が進んでいる。
- △老人に対する感心度が薄い、若い世代に思いやりが薄い

△地域活動の場が遠い

- ・交流施設が多摩平に集中している

△IT環境が整っていない

- ・図書館にWi-Fiがない。IT環境が遅れている

△自然環境は豊かだけれども

- ・庭の手入れが大変
- ・山・川があっても歩いて行けない（南平）

△買い物が不便

- ・京王線沿い 買い物をする場所がない
- ・スーパーが少ない（平山地区）
- ・UR団地や丘陵地の住宅地、独居老人がいる
- ・坂道がきついと、お年寄りは買い物に行けない

△交通の便が悪い

- ・豊田駅南口と北口へのアクセスが不便
- ・南北移動が大変
- ・バス本数が少ない。特に丘陵地は不便

△防災面に不安

- ・緊急時の避難所が遠すぎる（南平）

△行政内で連携してほしい

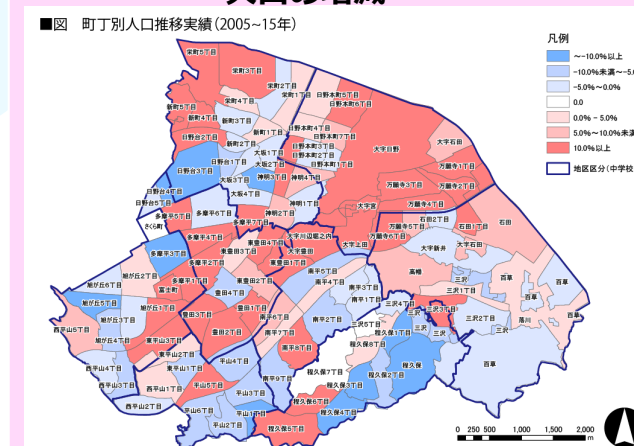
△道路が歩きにくい

- ・歩道の切込みが多く、車椅子が不便
(車道と歩道の段差)

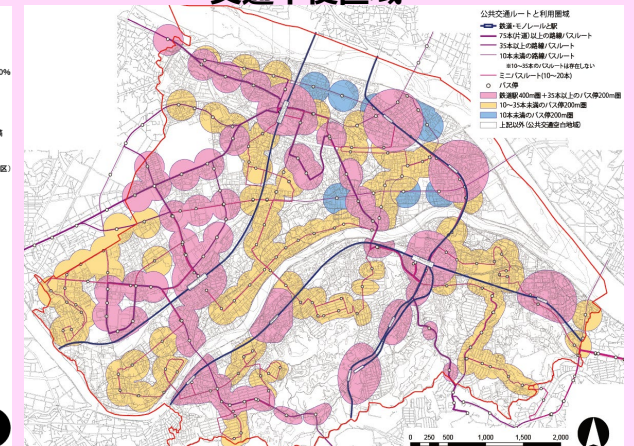
△福祉サービスの改善を

- ・引っ越しすると以前のケアマネジャーを選ばない。(地域担当制)

人口の増減



交通不便区域



(住み慣れた場所で暮らし続けられる条件より)

高齢者が歩きやすい歩道の整備

- 取組(案)**
- 安全に通行できる道路環境の整備
 - 車椅子も安全に通行できる歩道を整備する
 - 自転車レーンを設ける

公共交通の使いやすさを改善する

- 取組(案)**
- バスなどの公共交通を使いやすくする
 - バスを市民が積極的に活用し、交通手段を定着させる
 - (運転免許を手放す高齢者の移動手段を確保)
 - (例えば新たにミニバス路線ができた後、住民が積極的に利用することで事業採算を安定させ継続させる)



高齢者の活動を後押しする環境づくり

- 取組(案)**
- 高齢者の活動を活発にするためのITインフラを整える
 - ・これからの時代、世代を問わずIT環境は必須



丘陵地等で高齢者を支える仕組み

- 取組(案)**
- 団地や戸建て住宅地に住む独居老人の生活をサポートする仕組み
 - 高齢で買い物にも行けないお年寄りを手助けする活動
 - 地域の小さな商店が、店を閉めないように行政等が援助をする
 - 「移動スーパー」を運営して、お年寄りをサポート

災害時にも安全に避難できる

- 取組(案)**
- 「自助」の促進。防災7か条のポスター作りなど
 - 「共助」の避難体制づくり
 - 地域の小さな商店が、店を閉めないように行政等が援助をする

(リタイア後の、地域との理想的な関わり方より)

元気な高齢者が活動できる居場所づくり、高齢者の活動づくり

- 取組(案)**
- 高齢者が集まり、活動できる場所を身近なところにつくる
 - 心豊かになれる環境・居場所をつくる。友人やコミュニティ集会
 - 地域にいれば、昔の同級生とのつながりや、地域のお祭りで、交流のネットワークは広がる。
 - 空き家を活用して居場所づくりを行えば、空き家の対策にもなる

- ・「居場所」をつくることに加え、高齢者の「役割」や「仕事」を与えることが重要なポイント！
- ・元気な高齢者、リタイア直後の世代が頑張らなければいけない！



共通の活動テーマをもつ仲間をつくる

- 取組(案)**
- 「脳活」サークルの展開。iPadの活用
 - 必要な3要素は「栄養」、「運動」、「コミュニケーション」
 - いきいき健康体操。体と頭を鍛える
 - 1週間に3回、8000歩を歩く。早歩きで20分かける。

若い世代との交流を生む活動

- 取組(案)**
- 住みやすいまちとは、協力し合って生活できること
 - 戸建て住宅地では敷地が分割されて、若い20代が移り住む。若い世代との交流を促す活動をする

(「生涯健康でいられるまちとは」より)

元気な高齢者が、元気でいられる居場所づくり

- 取組(案)**
- 健康な高齢者が休憩できる場所、集まれる場所を「市役所」に設ける
 - 高齢者が休憩し集まる場所を、「市内各地」に設ける
 - (集まる場所が増えれば認知症の予防になり医療費の削減につながる)

元気でいられる仕組みづくり

- 取組(案)**
- 自転車シェアリングで、どこでも自転車が借りられ、乗り降りできる仕組み

介護が必要な高齢者の環境改善

- 取組(案)**
- 地域包括センターの介護サービスの充実
 - グループホームを増やす

多世代で住めるまち

- 取組(案)**
- 親子（できれば三世代）が一緒（又は近隣）に住める地域にする（税対策、優遇も含む）
 - 医療・認知症対策

(「いきいきとしたまち、づくりに必要なことより」)

市民からアイデアを集め、発信する

- 取組(案)**
- 市は、市民から情報やアイデアを集め、集めた情報を市報等できちんと市民に周知
 - 市民のアイデアを受け入れる、柔軟な窓口
 - 学校とのタイアップ。地域とのつながり、研究ゼミで取り組む（明星大学の学生が住宅地に移り住む連携策を既に行っている）
 - 市は環境や場づくりをする。その先に必要なのは、活動を引っ張っていくリーダー

子育て世代にとっての日野市の暮らしやすさ

暮らしやすいところ◎

◎自然と触れ合って遊べる環境がある

- ・「NPO法人子どもへのまなざし」が日野の財産！（カワセミハウス、なかだの森、落川などでの活動）
- ・豊田駅近くに黒川清流公園がある

◎顔の見えるご近所関係がある

- ・自治会等の枠を超えて住民同士の交流活動を展開している地域もある（南平5丁目カフェ）
- ・南平では放課後の子どもの居場所づくりを始めた

◎日常の買物が便利(豊田周辺)

- ・イオンのネットスーパーが便利
- ・豊田じぞう宅配便も頑張っている

◎病院、高齢者施設がある

- ・障害者との共生（光の家）
- ・豊田駅周辺にクリニックが多い（市立病院で働いていた方の開業が増えている）

◎ベビーカーも通しやすい歩行環境（多摩平）

◎都心への交通アクセスが良い

- ・豊田駅は始発がある

◎子育て支援に役立つ施設や制度がある

- ・カワセミハウス（子ども、高齢者の居場所になっている）
- ・ファミリー・サポート・センター
- ・エール（日野市発達・教育支援センター）には両親の会がある

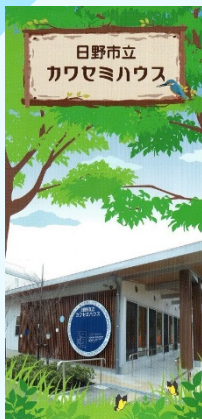
南平5丁目カフェ

子育て中のママたちの情報交換ができる交流場所
@新川辺地区センター



豊田じぞう宅配便

商店会やNPOが主体となった宅配サービス事業



日野市立カワセミハウス

(旧)環境情報センターと吹上地区センターの機能が一つになった複合施設。黒川清流公園に隣接し、ロケーションを生かして身近な自然環境の重要性を広くアピール。日野市でしか味わえない潤いある豊かな暮らしを創造する拠点、施設を訪れる人々による新たなコミュニティづくりの拠点を目指す。

暮らしにくいところ⊖

△世代間の距離がある

- ・ワーキングママ（特にフルタイム）は実は孤独

△地域コミュニティが希薄

- ・自治会加入率が低く、子ども会がなくなった地域もある
- ・豊田駅周辺では高層マンションが増えているが、既存の自治会に入らないところが多い
- ・子どもと地域の方があいさつをする習慣が消えてきている（防犯面の指導、地域内の顔見知りの関係が薄まっていること等が影響）

△都心への通勤に時間がかかる

- ・両親の帰りが遅い家庭では、家庭内教育を十分にできない

△放課後のこどもを見守る環境が整っていない

- ・シングルペアレント世帯が増えている
- ・学童やひのっち（放課後子ども教室）では終了時間が早い
- ・放課後、1人で過ごす時間帯の子どもは災害弱者にもあたる

△防災、防犯面で不安がある

- ・災害対策は十分？（崖、河川、避難場所）
- ・防犯面の不安がある（街灯の少ない夜道は危険）

△施設がまちなかになく利用しにくい（児童館など）

△公共交通がやや不便

- ・バス路線が少ないので自家用車が必要
- ・公共交通は市内縦方向の移動が不便
- ・市内の歩行者の通行環境の安全性は？

△病院は混みがち（特に皮膚科）、小児科が少ない

△子育て支援を上手く受けられていない世帯もいる

- ・フルタイムでない方は保育園に入れるのを諦めがち
- ・利用できる子育てのサポート制度を調べきれていない人が多い

△住宅の取得費用は高め

- ・ローンを払うために夫婦共働きで一生懸命働くしかない

△市内企業の特性を活かせていない

日野市に暮らす価値を高めるために

生活利便性	・忙しい子育て世代を支える、日常生活の利便性の整った生活環境の確保
地域コミュニティ	・子育ての悩みを抱えるワーキングママの居場所や放課後の子どもの居場所づくりなど、地域で孤立しやすい属性を支え合える環境づくり
教育環境	・豊かな自然や地域性を活かした子育て環境ニーズへの対応、体験教育の展開 ・市内に立地する企業の先端技術等を活かした教育環境の提供による魅力向上
保育環境	・保育ニーズの増加への多面的な対応
暮らしの安全性	・夜間の防犯性や防災対策の強化

（子育て環境として必要な条件より）

ワーキングママ・パパが地域とつながりを持てる居場所づくり

取組(案)

- 子どもを預けつつ息抜きできる場所を増やす > 例
- 子ども家庭支援センターの拡充（現在3箇所→各地域に配置）
- 世代を限定しないサロン、平日の夜に子連れで集まれる居場所をつくる
- 運営のマンパワーを確保する



例：子育てカフェモグモグ

防災性、防犯性の高い地域づくり

取組(案)

- 交流施設周辺を中心に、街灯や防犯カメラを増やす

（子育て世代の、地域との理想的な関わり方より）

困りごとをかかえる市民の属性の枠を取り払って 子育てができる環境づくり

（ワーキングママ・パパ、市内在住外国人、高齢者、丘陵地域の居住者など）

取組(案)

- 子どもたちがいろんな人がいる環境に触れられるよう、他文化、異世代のダイバーシティを推進
- 地域の交流や教育の核となる場づくり
- 課題解決のための検討の場と体制づくり(取組主体とサポート体制)

- ・個別の属性の方を地域にどう引っ張り込んでサポートできるかが鍵
- ・日野市内ではまだ外国の方の人種ごとのコミュニティが出来上がっていないため、閉じたコミュニティが出来上がる前に、地域のコミュニティに取り込みたい



地域の子どもの地域でみれる養育力をつける

取組(案)

- 地域内の子どもと大人の接点を増やす
- 地域特性を活かした体験の場の提供 > 例
- 持続性のある仕組みづくりのための「場所」「人材」確保のバックアップ（地域内の空き家の活用など）
- 近隣の大学や企業との連携



例：水辺の楽校

- ・子ども同士（小・中・高校生など）も世代間交流をしながら育ち合い、地域で育てられた子どもが地域で活躍するようにしたい



（「子育て世代に選ばれるまちであるために」より）

より利便性の高い、魅力的な居住地づくり

取組(案)

- 駅周辺などの利便性が高い地域の利便性の強化

実家や家族と近居できる住まいの確保

取組(案)

- Uターン者の積極的な受け入れ

子育て環境や支援内容の充実

取組(案)

- 子育てに関するサポート情報の一元化と周知の拡大（インターネットの活用） > 例
- 地域ごとに異なるニーズの把握
- 食育、学習支援などニーズに応じた支援

例：立川のママサークルが運営するサイト「ワッカチッタ」



- ・地域によって住宅の特性や交通の利便性、自治組織の状況など、住民同士のつながりが異なるため、それぞれのニーズを拾っていく必要がある



移動環境の利便性の向上

取組(案)

- 市内の縦方向の交通利便性の確保（JR⇄京王線）
- 駅前や特定の交差点の渋滞緩和

（「いきいきとしたまち、づくりに必要なことより」）

市内企業と連携した教育環境づくり

取組(案)

- 市内企業や大学の技術を活かした先端教育の実現
- 日野を知り、将来的にも愛着が持てるよう企業見学を展開

- ・現状では市内企業の技術を子どもたちに還元できていない
- ・企業と連携してITなどの先端教育をしたり、市内団体と連携して科学教室などができると良い



安心・安全面からみた日野市の暮らしやすさ

暮らしやすいところ

◎豊かな自然環境がある

- ・湧水などの水源が豊富にあるため、災害時には水不足になりにくい
- ・緑などの自然が多く残されている

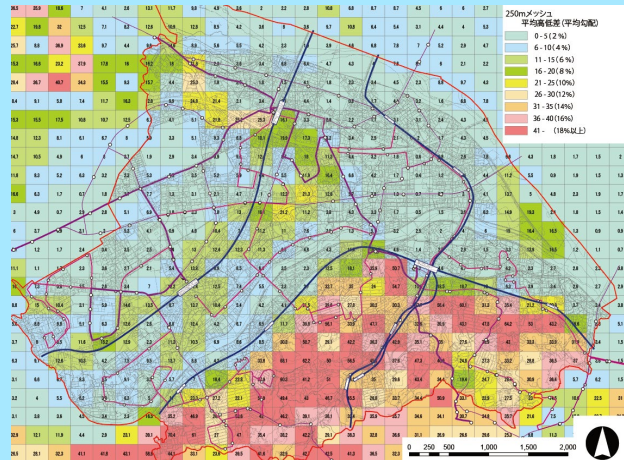
◎暮らしに必要な施設が身近にある（多摩平団地）

- ・多摩平団地には病院や公園がある

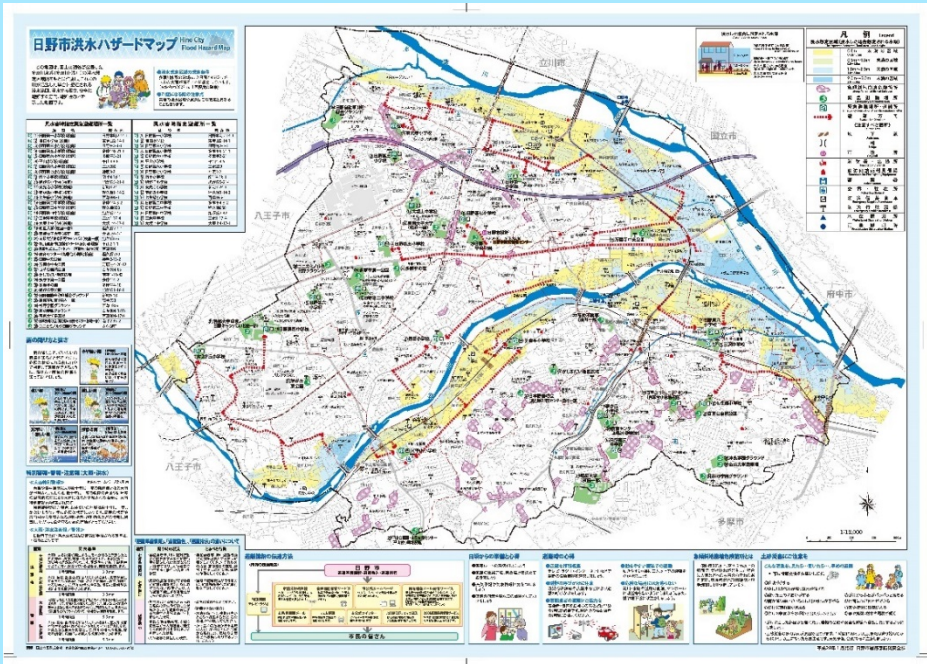
◎暮らしやすい平地がある

- ・低平地は道路の幅が広い

■日野市全域の地形



■日野市洪水ハザードマップ



暮らしにくいところ

△丘陵部の水害の危険性

- ・雨天時や災害時の被害が甚大になる可能性がある
- ・湧水や用水があり水を確保できる一方で、水害の際はがけ崩れなどの危険性がある

△避難場所の安全性や移動距離に不安がある

- ・地域によっては避難場所が遠かったり坂の上にあったりするため、避難するのが大変（特に高齢者）
- ・七生中学校は川に隣接しているため、災害時の避難場所としては適していない

△災害時のライフラインについての不安がある

- ・丘陵部の地域は災害時にライフラインが断たれることにより孤立することが危惧される

△防災対策に不安がある

- ・国や都による防災関係の資金補助を活用する等の工夫がない
- ・災害後に住宅を移転するための用地が少ない

△丘陵部の移動が不便

- ・高齢者が多く住んでいる丘陵部は道幅が狭い
- ・丘陵部は坂が多い上に勾配が急で、冬は雪が積もると大変

△公共交通がやや不便

- ・バス停からマンションまでの距離が遠いため移動が疲れる

△若者と高齢者のつながりが少ない

- ・若者と高齢者の日頃からのつながりが少ない

△地域の防災体制に不安がある

- ・自治会の中で防災担当を決め、自主防災組織として確立しているが、形だけの組織になっている

日野市に暮らす価値を高めるために

交通・移動環境

- ・丘陵部や木造密集地域で安全に生活を送るための道路環境の向上
- ・高齢者が安心・安全に移動できるような移動手段の確保
- ・歩行者や自転車利用者が安全に移動できるような移動環境の確保

地域コミュニティ

- ・防犯・防災対策としての日頃からの地域での関係づくり

災害時の避難

- ・災害時に安全に避難できる施設及び場所の確保

自然環境

- ・豊かな自然環境を維持しながら、災害時の安全性も確保できる生活環境の創出

事前復興

- ・災害により被害を受けた住宅の移転先の用地確保
- ・災害時を見据えた事前復興計画の検討

（安心して暮らし続けられる住宅地の条件より）

自然と共生しながら安心・安全に暮らせる環境づくり

- 取組(案)**
- 湧水や多摩丘陵などの豊かな緑の保全と合わせた、洪水や斜面災害等の災害対策の充実
 - 災害時における、水源の具体的な活用方法の検討
 - 土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域への対策
 - 災害の種類に応じた避難しやすい場所の確保

- ・土砂災害警戒、土砂災害警戒特別区域では、対策方法をも含めて市から住民へ説明を行うなど、住民への意識付けが必要
- ・過去の災害時の被害状況のデータを参考に、地域によって警戒度のランク付けを行い、市民に周知しておくことが重要

災害時に主体的に行動できる人材の育成

- 取組(案)**
- 市認定の防災土育成講座の開催
 - 避難所の運営を主体的に行う市民リーダーの育成

早期に復興できる事前の計画づくり

- 取組(案)**
- 市全域における事前復興計画の策定（被災した住宅の移転先の用地検討等）
 - 災害時のライフラインの確保

- ・丘陵部の住宅地は災害時に孤立してしまうことが危惧されるため、災害時のライフラインが確保できるように事前の整備が必要



（安全な暮らしを支える、地域の理想的なあり方より）

災害時に生きる平常時からの備えやご近所同士の関係づくり

- 取組(案)**
- 地域ごとの日頃からの助け合いの関係づくり
 - 若者と高齢者など、多世代が交流できる場づくり
 - 平常時からの避難施設や資器材等の利用促進
 - 公園整備と併せた災害時に役立つ設備の充実（釜ベンチ 等）

- ・子育て世代の方など、防災に関心がある層に協力を得るためのきっかけづくりが必要



自助・共助・公助のバランスのとれた体制づくり

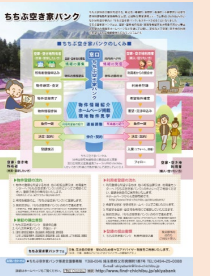
- 取組(案)**
- 災害ボランティアやNPOなどによる災害対応ができる体制づくり
 - ・それぞれの役割を認識し、行政だけに頼らないという考え方が重要

（空き家・空き部屋の活用方法より）

高齢者を始めとした地域住民の居場所としての空き家・空き部屋活用

- 取組(案)**
- 簡単な食事やお茶ができるような場所としての活用
 - カフェ等の運営者の育成を充実させることによる、市民やNPO団体等の運営への協力促進
 - 空き地、空き家情報の見える化

- ・活用できる空き家・空き地については、情報が見える化することで、地域の中でも新たな活用方法を考えられると良い
- ・地域コミュニティという視点で、高齢者や子どもの居場所として活用できると良い



例：ちちぶ空き家バンク

空き家を活用した地域の活性化

- 取組(案)**
- 学生への低賃金での貸し出し⇒地域活動への参加とセット

- ・地域活動への参加を条件に低賃金で空き家を貸し出すことで、地域の活性化をはかる

（「いきいきとしたまち、づくりに必要なことより」）

地域ごとのコミュニティの活力向上

- 取組(案)**
- 新規住民の、既存活動への参加促進
 - 災害時に向けた地域のリーダーの確立
 - 既存コミュニティとしての自治会の維持、自治会加入率の向上
 - ご近所どうしの顔見知りの関係づくり
 - 自治会への加入や地域活動へ参加するメリットの創出
 - 防災だけに限らない、楽しいイベントをメインとしたコミュニティづくり



例：マザアス日野「たまカフェ」
地域の様々な世代や団体、事業者等が交流できるコミュニティカフェ。



例：地域懇談会
アクションプラン

水とみどりの環境から見た日野市の暮らしやすさ

暮らしやすいところ☺	暮らしにくいところ☹
<div>◎自然やみどりを守り育てるひと・団体がある</div> <div>・みどりを守り育てていく“ころざし”のある人がいる</div> <div>◎農やみどりに魅力を感じて転入する人もいる</div> <div>・新しく移住してきた若い世代がアウトドア派 →自然が好きで移住する人もいる</div> <div>・農家、農地が減っているが、週末農業など農業をやりたいというニーズもある</div> <div>・農業をしたい方が転入すると、活性化につながる</div> <div>◎自然が身近かにある</div> <div>・身近な公園の緑が増えた</div> <div>・川や緑地がまとまって残っている</div> <div>・昔はいなかったホトトギスがいる</div> <div>◎川や田んぼ・用水等の水辺が豊か</div> <div>・多摩川がある</div> <div>・用水を守ってきた</div> <div>・水辺が多く涼しい</div> <div>・湧水が豊富にある</div> <div>・風が吹く</div> <div>・田んぼのある風景がある</div> <div>◎自然を活かした暮らしがある</div> <div>・便利を追求しないから良い</div> <div>・自然を契機として様々なことを知る糸口がある</div> <div>◎その他</div> <div>・住宅市場で日野は人気がある</div>	<div>△自然の質に問題がある</div> <div>・見た目は良いが接することはできない自然がある</div> <div>・意識しないと、自然に接する機会が少ない</div> <div>・川や緑地はまとまって残っているが、「くず」が繁茂している</div> <div>・開発行為による、地下水脈への影響</div> <div>△用水の維持管理が難しい</div> <div>・区画整理で用水の形状が変わり（つくり方に工夫がなく）生き物が住まなくなった</div> <div>・用水上流の管理によっては、下流域が汚れていることがある</div> <div>・用水守の登録者は増えてきたが情報共有（の機会）が不足し、連携が取れていない可能性がある</div> <div>・使われていない用水等の実態把握が必要</div> <div>・用水があるだけでは、困っている人もいる。金銭的なもの、環境（におい、ごみを嫌う人もいる）など</div> <div>・残したいニーズがあれば、無くしたいという人もいる。資源への価値の共有が必要</div> <div>△自然環境との共存の難しさ</div> <div>・暮らしやすさを追求すると豊かな自然は維持しにくい</div> <div>・みどりが減少している局面で、暮らしの視点から「良い点」は出しにくい</div> <div>△自然の減少</div> <div>・農地、田畑が減り、庭のない家が増えている</div> <div>・丘を崩してまでの開発が行われている。都市開発より、今のまま残してほしい</div> <div>△農業従事者の立場も考えた農地の保全</div> <div>・世代交代が進まず、農地を手放さざるを得ない状況がある</div> <div>・農地の固定資産税は地方と比べ高いなど、続けるのにメリットがないと今後も減っていく</div> <div>△計画の進捗管理</div> <div>・マスタープランでは「保全」をうたっているが、みどりや農地が減少しており、具体的な取り組みが進んでいない印象。危機感を持っている</div>

<div>日野市に暮らす価値を高めるために</div> <div>課題</div>	地域資源	・川・湧水、農地と水路、丘陵の緑 →市民が自然や農に親しむための環境保全。人工的ではない自然
	教育環境	・小学校区ごとにみどりや農に触れ合える場づくり
	みどりの保全と価値の創造	・持続可能な都市づくりの視点で、これからの水とみどりの環境のあり方と保全の仕方についての検討
	人的要因、コミュニティの課題	・農家と市民の交流機会の拡大 →周辺住民の意識改革。地域の中で、農業のあり方を話し合う
	活力あるまち	・水とみどりの地域資源を活かした働く場、交流の場づくり
	将来をみたまちづくり	・水とみどり、農の保全だけではなく持続させるための収益化、付加価値づくり
	計画の進捗管理	・農業を活かした交流の拡大 →農地や自然を活かす暮らしの創出
		・市民参画による公園・里山・水辺の維持管理
		・農の公共財化 →農家まかせでない公的支援も含む農がある暮らし。JFなど農園
		・産官学と連携した水とみどり、農業に関わる地域資源の活用
		・水とみどりを活かすための「観光」の視点、来街者が水とみどりを楽しめる仕掛けづくり
		・みどりや農地の保全に関する施策の実施、管理体制の検証
		・マスタープランの施策の推進体制、関連計画との整合性のチェックを含めた管理体制の確立（施策評価の段階での市民参加）

（水とみどりのある理想の暮らし）

開発と保全が調和したインフラ整備

- 取組(案)**
- 生き物にやさしい用水と田んぼの保全、開渠化
 - 用水や田んぼを残すことができるような区画整理手法の選択
 - 疑似自然、人工的ではないしつらえにしてい

- ・用水は雨水の排水ルートになるので、保全すれば防災上も役立つ



農の拠点の充実

- 取組(案)**
- 都市計画道路等の整備と合わせた車でのアクセス性向上、駐車場の確保等、車社会に対応した設えの充実
 - 来場者を増やす工夫、お金を落としてもらえるような付加価値の創造

（水とみどりを守り育むために）

水とみどりの地域資源を活用した価値の再発見の機会づくり

- 取組(案)**
- 用水守の育成、地域で用水清掃を実施
 - 用水守の会をつくり、情報共有、意見交換
 - 水車の復活
 - 用水・湧水案内ツアーの実施（資源、価値の再発見）
 - 農業と福祉の連携
 - ↑多摩地域で障害者がハウス農業を手伝っている例があり、双方に効果があがっている
 - 活動の広報・アピールを充実する
 - 水資源活用に向けた用水、湧水の活用実態把握
 - 産官学連携による水資源の活用、地元企業とのタイアップ

- ・今ある資源を活用し、市民・来街者・インバウンド観光にとっての新しい価値を再発見したい



水とみどりの保全のためのアクションプランづくり

- 取組(案)**
- 保全に関する統一した計画づくり
 - 行政と市民が協働で考える会議の場や機会づくり
 - 市が主導で保全すべき所のメリハリをつけた計画づくり
 - 保全すべき場所の優先順位づけ
 - 市役所内の分野間の連携強化（生まれている市民活動との協働）

- ・全てのみどりを守っていくことは難しいが、守り方を整理したい



（農のある暮らしを、地域で守り育てる）

既存資源を保全しつつ持続可能な形でリメイクする

- 取組(案)**
- 身近な**農業公園**の整備
 - ・西平山の公園整備予定地等を、農業公園に指定して田んぼを保全
 - ・市民が気軽に田んぼに触れ合える環境の整備
 - ・収穫物による「**炊き出し食事会**」の実施
 - ・公園の中にはカフェ、直売所を設け、今ある資源を活用して収益を生み出す
 - ・小学校区ごとに農業公園を整備し、子どもや地域の農業体験の場を創出
 - ・「**学校米**」を地域の田んぼ、地域の人でつくる
 - ・地域のお店、レストラン等と連携し、農作物を提供、地産地消の推進
 - 用水・湧水の活用
 - ・田んぼが減少すると用水の機能も活かすことができないため、セットで活用策を検討する
 - ・用水・湧水の歴史の紹介
 - （自然とのバランスや矛盾などを通し、地域を知る）
 - ⇒**用水・湧水案内ツアーを商品化**し、収益化をねらう

農地の公共財化

- 取組(案)**
- 農業生産だけでなく、自然空間としての農地を評価していく
 - コモンズ農園やクラインガルテンの整備、週末農業
 - 生産緑地の新制度の活用、農地の増加、参入しやすい環境づくり（農地の共同管理、税負担軽減など）
 - 国の制度創設による、農地の公共財化
 - 農業大学・高校の**学校農園**→日野の農地を学校農園で使ってもらい
 - ↑今は都心から離れた地域にあるので**日野に誘致**する!!

- ・農家まかせではなく、地域住民が農地を支える仕組みをつくりたい
- ・田舎へ出かけなくても、日野の農地を活用して実現できるふれあいがあ



（その他）

日野の遺産発見・発掘プロジェクト

- 取組(案)**
- 旧蚕糸試験場日野桑園遺構群の価値を生かした活用
 - 日野市の産業・自然遺産として登録・指定する
 - 単なる古典文化財ではなく、生活文化財として交流の契機にする
 - 失われた蚕室群を発掘し、残した並木との関係を再発見
 - 旧蚕糸試験場を楽しむ
 - 庁舎基礎の内側は自然遺産
 - 日野宿との連携

- ・「文化財の活用」を「水とみどり」「子育て」等と並ぶ1つのテーマとして扱ってほしい



交通環境からみた日野市の暮らしやすさ

暮らしやすいところ◎

◎まちづくりと合わせて交通環境が改善されている

- ・高幡駅前→市役所のバスの便数が増えて便利になった
- ・他都市に比べてバス便が多い
- ・万願寺周辺の交通は便利

◎病院が多く安心して暮らせる

- ・今は通院に送り迎えをする病院も増えて、車がない高齢者も安心して暮らせる

暮らしにくいところ◎

△ミニバスのルート

- ・高幡台団地は高齢者が多く買い物が大変だが、バス停まで遠い。団地の中までバスが入って来ない。
- ・ミニバスは市内だけでなく市外への運行も（多摩川を渡った先にあるバリュースーパーへ行くニーズが多い）
- ・橋の数が足りない（高幡→豊田のルート）

△バスの乗りやすさ

- ・ミニバスは揺れが大きい
- ・ミニバスの車椅子対応が良くない時がある。細い道路でスロープが下ろせなくて乗降できない場合がある。

△便数が少ない

- ・高幡駅前→豊田のバス便数が少ない
- ・ミニバスの便数が少ない
- ・ミニバスの運行本数が少ない（高幡→三沢方面）
- ・駅までの運行本数が少ない。

△乗り継ぎが不便

- ・バスの乗り継ぎの時間を考慮してほしい
- ・乗り継ぎにおける停留所の位置と時間が合わない。

地域ごとの特徴や課題

①南北の連絡

- ・浅川を挟んだ南北の移動は不便。鉄道とバスを乗り継がなくてはならない。
- ・浅川の橋が少ない。現在のマスタープランで書かれている豊南橋は必要。
- ・南北格差が問題。北側に公共施設が集中している。区画整理も北側が中心。

②南台

- ・南台は日野で4番目に乗降客が多いが、駅までミニバスが行かない。北野街道にバスがない。（鉄道と並行しているバス路線は運行しないとのことだがやはり必要→拡幅事業中でバスベイ等が整備されたら運行を検討する）
- ・南台駅前のロータリーがあれば良い場所に新築住宅が立った。
- ・南台では新しい住宅も増えている。若い人も少しずつ増えている。

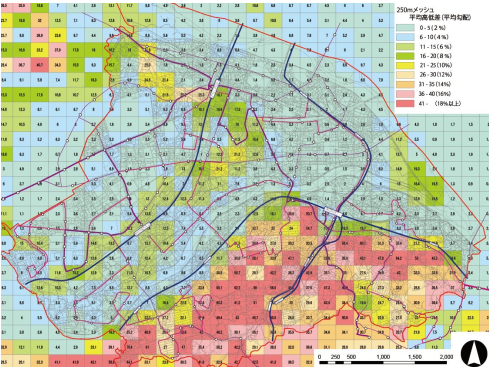
③日野台

- ・日野台から高幡へ出るのは乗り継ぎが不便で面倒
- ・日野自動車があるのでバス便も多く人も多く働いているが、移転によりだんだん人が減っている。

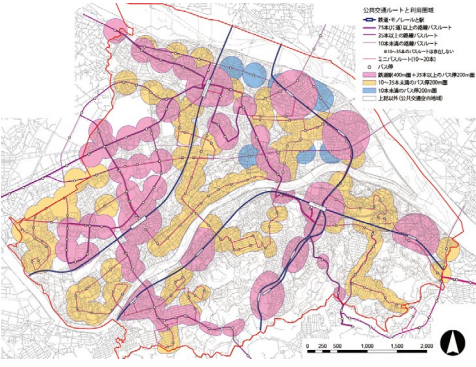
④多摩平

- ・病院が多くて便利

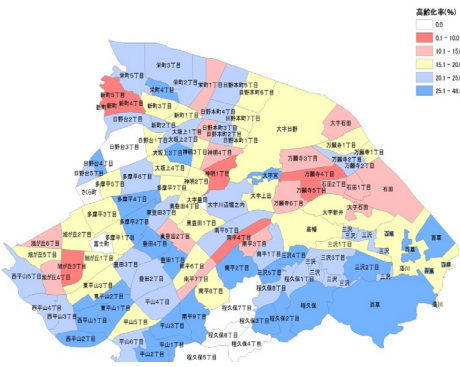
■南部に勾配のある住宅地、北部は崖線で台地と低地



■3拠点をつなぐルート外に交通不便な地区がある



■南部に高齢化の高い区域、区画整理地区は若い人



日野市に暮らす価値を高めるために、交通環境の視点から

生活利便性	・南部は勾配のある地形に高齢者が多く住む住宅地、空き家も多い →公共交通を含めたきめ細かい対策が必要
バランスのとれた地域づくり	・南部と北部は交通環境だけでなく、生活サービス施設や基盤整備面で差がある。 →地域の特性に応じたバランスのとれたまちづくりが必要 →浅川の橋を増やす等、南北の行き来のしやすさを確保する
地域資源	・川、農と水路、丘陵の緑と富士山の眺め →日野に来る人を増やし、市民が楽しむための移動環境の視点
活力のあるまち	・工場の移転、リタイアした高齢者の増加 →働く場を創り、それぞれの世代が役割を持つ地域社会へ
将来を見据えたまちづくり	・運転できなくなった高齢者の円滑な移動環境の確保 →歩ける生活圏づくりの視点のまちづくり

高齢者・障害者の視点を大事にするまちが日野に住む価値を上げることにつながる

（市民が守り・育てるミニバス）

ミニバスの運行本数やルートを、 市民、市、運行事業者で話し合う場をつくる

現 状

- ・ミニバスは他都市と比べ充実しているが、個々のニーズでは使いにくい場合もある
- ・市外へ行くニーズもあるが、ルートが市内中心なのは見直したい

例：自治会でバスを運行
（兵庫県 宍粟市）



取組(案)

○バスルートの設定について

- ・ミニバスの利用者データを取って、利用状況やニーズに応じて見直しができる体制をつくる
- ・人口分布とバスルートに関係を調べてルート設定をする
- ・ミニバスは市内で完結するのではなく、市外へのルートも考える

○バスルートとまちづくりの連携

- ・公共施設なども日野市単独で整備するのではなく近隣と連携して整備し、併せてバスルートも再検討
- ・用水や緑の資源を活かして、観光で日野に来る人を増やす。市外の人にもバスを使ってもらう。

○市民がまもり育てるミニバス

- ・「ミニバスサポーター制度(仮)」を作って、ルートや本数を協議しながら決める
- ・障害者も含めた「ミニバスの試し乗り」のようなことも役に立ちそう。→障害者や高齢者が乗る時のマナーづくりにつなげる
- ・収益向上にも市民のアイデアを活かす（観光客へ「新撰組デザイン」のバス発行など）

（市民共助の公共交通の補完）

公共交通でカバーできない小さいニーズを市民で助け合う

現 状

- ・バス停まで歩いて30分かかる場所もある。バスを運行するだけの利用者はないが、日々の買い物で荷物を持って歩くのは大変



取組(案)

○デマンド交通とミニバスの連携

- ・ワゴンタクシーの機能を見直し、住宅から駅までのルートを中心とするデマンド方式にする
- ・ミニバスとワゴンタクシーを連携して運行

○地域の共助の交通環境整備

- ・NPOや地域でお年寄りなどを送迎するサービスを行う

（すべての人が安心・快適に移動できる環境づくり）

公共交通の運行へのきめ細かい配慮

現 状

- ・ミニバスで狭い道路のバス停では車椅子で乗り降りできないところがある
- ・障害者は「乗りづらい」から使わないという人もいる



取組(案)

○運転士や同乗する市民のマナー改革

- ・「障害者や高齢者が乗り合わせた時のマナーづくりと普及」：普通の市民は手伝いたいが対応方法がわからない
Ex. 運転士は車椅子位置に対してどこに車を止めればよいか

○ハードの整備・改善

- ・バス・バス停・道路など：車椅子が余裕を持ってミニバスに乗り降りできるようなバス停留所周りやバスの整備

（交通環境確保の条件整備）

公共交通の需要の高い場所での、将来を見据えたまちづくり

現 状

- ・利用のニーズの高い南平駅にミニバスが行かない
- ・浅川を挟んだ北と南の行き来がづらい



取組(案)

○バスルートとなる道路の優先的な整備

- ・農道のような狭い道にミニバスが通っていたり、車椅子で乗り降りできないバス停のある狭い道路などの改善

○将来を見据えたまちづくり

- ・南平駅前など、京王線沿線の駅前広場が将来確保できるような建築の規制誘導

（自家用車を運転できなくなった時への準備）

将来も安心して便利に暮らせる準備をしておく ～歩ける範囲で生活圏が構成されるまちづくり～

現 状

- ・今は運転できるが、運転できなくなった時が不安
- ・シルバーパスは現状で役立っている
- ・多摩平はクルマのない高齢者の暮らしにとっても理想的

取組(案)

○歩いて暮らせる生活圏の整備

- ・買い物や病院など、必要な生活機能を歩ける範囲に

○コミュニティの持続性を維持

- ・丘陵部の空き家をこれ以上増やさず、若い人に住んでもらうなど、コミュニティで近隣の困りごとに対応していく